

9月1日は防災の日

問合せ 防災安全課 ☎ (43) 1111 内線 582 ・ FAX (43) 7656

◆地域防災とは

「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い連帯感のもと、地域のみなさんが災害発生時はもちろん、日ごろから自発的に防災活動を行うことを地域防災といえます。市では、地域防災力の強化に取り組んでいます。その一翼を担うのが自主防災組織です。現在、区を中心に組織を結成していただけるよう推進しています。

◆自主防災組織で地域の安全を

大規模災害発生時には、広範囲にわたって建物倒壊や火災発生、道路・水路・消火設備破損などが想定され、みなさんのところに警察や消防、市の職員がすぐに駆け付けられるとは限りません。

そこで重要になるのが地域のみなさんの助け合いです。被害を減らすために、まずは自分自身、家族の身を守り、

つぎに、地域のみなさんが集まり、互いに協力して災害活動に取り組み自主防災組織の活動が期待されています。

◆区や自治会の活動に

積極的に参加を

地域防災がいざというときに、その力を十分に発揮する

ためには、地域のみなさんの日ごろからの強い結束が大切 です。

その絆を作るために活動しているのが、区や自治会です。平常時にこそ、地域の活動に積極的に参加し、相互の絆を深めておくことが防災の観点からも非常に重要です。

◆埼玉県防災学習センターで

防災を学ぼう！

地震・煙・爆風・消火などの疑似体験のほか、防災について楽しく学習することができます。センターで正しい知識・技術・行動力を身に付け、災害に備えましょう。

なお、講演会やイベントの情報については、センターのホームページをご覧ください。

埼玉県防災学習センター

所在地 埼玉県鴻巣市袋 30 番地

電話 048 (549) 2313

開館時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分
※入館は午後 4 時まで

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

ホームページ

<http://saitamabousai.jp/>

幸手市消防団の活動

消防団は、火災時の活動はもちろん、地域の防災訓練、救命講習会への参加や大規模な台風などの水害時の水防活動のほか、消防署と連携して地震などの災害時における消火活動や人命救助活動なども行っています。

防災訓練では、普段なかなか見ることのできない消防団活動を間近に見ることができます。また、このほかにも消防特別点検など、地元団員の雄姿をご覧いただける事業がありますので、ぜひ、ご来場ください。

▼消防特別点検

とき 11 月 3 日(祝)午前 9 時～11 時

ところ 市役所駐車場

▼放水訓練

とき 11 月 12 日(日)午前 7 時から

ところ 東公民館付近中川河川敷

※当日は、消防団の車両がサイレンを鳴らしながら走行しますが、火災ではありませんので、ご注意ください。

防災訓練に参加しましょう

防災訓練に参加し、自分たちにできることを再確認して、防災について改めて考えてみましょう。

とき 10 月 14 日(土)午前 9 時 10 分から受付開始

※中止の場合は、午前 8 時ごろに防災行政無線でお知らせします。

ところ 上高野小学校
グラウンド・体育館

※当日、会場までは徒歩または自転車でお越しください。

訓練種目

負傷者救出訓練、炊き出し訓練、ロープワーク訓練、消防団消火訓練など

展示・体験

煙体験、無料出前耐震診断など

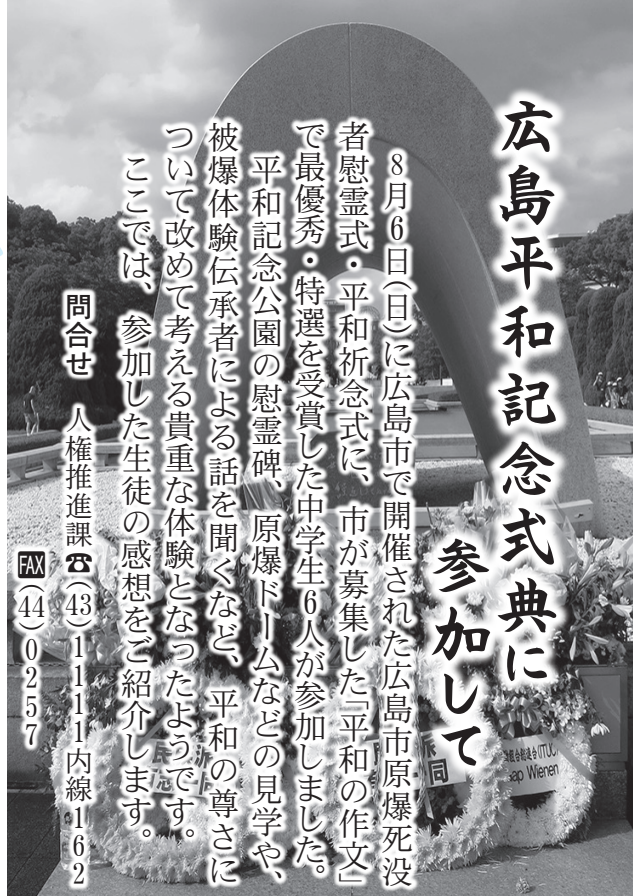
広島平和記念式典に

参加して

8月6日(日)に広島市で開催された広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式に、市が募集した「平和の作文」で最優秀・特選を受賞した中学生6人が参加しました。平和記念公園の慰霊碑、原爆ドームなどの見学や、被爆体験伝承者による話を聞くなど、平和の尊さについて改めて考える貴重な体験となったようです。ここでは、参加した生徒の感想をご紹介します。

問合せ 人権推進課 ☎(43) 11111 内線162

FAX (44) 0257



■増田 花凜さん(幸手中)
広島平和記念式典の参加や平和記念資料館の見学、被爆体験伝承講話を通して、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを学びました。

戦争を体験していない私たちにできることは、戦争について学び伝えていくこと、今の生活に感謝し、平和の在り方を考えることだと分かりました。

私は、今回学んだことを次世代に伝え、世界中が平和になり、世界中の人が明るい未来を迎えられるように願っています。

■田頭 奈寿菜さん(幸手中)
広島平和記念式典での体験

は、核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを改めて深く考えることのできた貴重なものとなりました。

被爆体験伝承者の方のお話を聞き、平和記念資料館でボロボロになった衣服や当時の写真を見て感じた、戦争の悲惨さ、広島の方たちの平和を願う思いを、戦争の知らない人たちに伝えたいと思います。また、それが争いのない、平和な世界へ繋がる第一歩になれば良いと強く思います。

■鈴木 萌仁さん(東中)

原爆が落とされてから七十二年、私が見た広島は、戦争の恐怖や平和の大切さを伝え、多くの国内外からの観

光客で賑わう都市でした。被爆体験伝承者の方のお話や、広島平和記念式典で多くの方が口にしていた「核兵器の無い世界づくり」、これが今私たちにできることだと思います。その一歩として、実際に広島を訪れ、核兵器や戦争の恐ろしさを知った私たちが体験したことを発信していこうと思います。

そして私は、いつか核兵器が世界から無くなり、平和記念公園の平和の灯の火が消えて、世界が平和になることを願っています。

■間中 都朱さん(東中)

今の広島には、時が止まっ



ているかのような光景があります。その建物は原爆ドームです。崩れたままの建物を見て、頭が真っ白になり、思っていた以上に原爆の凄惨さを感じることができました。

広島平和記念式典では、八時十五分に黙祷をし、広島市長の平和宣言、内閣総理大臣の挨拶などを聞き、改めて、式典参加者の平和を希求する意志を知ることができました。これは、私たちが「平和」を考える良い機会になりました。これからも戦争の恐ろしさを心に刻み、皆に伝えていきたいです。

■石塚 杏さん(西中)

私は、今回初めて広島平和記念式典に参加しました。広島市長の平和宣言などを聞いて、改めて平和な世界を実現させたいと思いました。

平和記念資料館では、当時の写真や映像、遺品など、たくさんのが展示されており、戦争の恐ろしさを感じるものでした。原爆が投下されたとき、それを目の当たりにした人たちは、どんな気持ちだったのか、考えただけで心が痛みました。



この三日間、私は戦争について深く考えさせられました。そして、戦争は二度と起こしてはいけないと思いました。そのために、今回聞いた戦争の話を後世にも伝えていきたいです。

■萩原 ミユウさん(西中)

「戦争は、二度と繰り返してはいけない。」これが、実際に広島を訪れた私が、身にしみて強く思ったことです。

戦争の傷跡は、表面的には見えなくなっていますが、でも、この広島地には、たくさんの犠牲者の方たちの血が、今も染み込んでいます。

今回、私が広島を見て、聞いて、感じた戦争の恐ろしさ、平和の尊さを決して忘れず、次の世代に伝えていくことが大切だと実感しました。